芭蕉句選 全

へ 5
5464

門へ6
號5464
巻

早稲田大學図書館
昭34.6.1 受
藏書

東京都立中央図書館

東京都立中央図書館

に流俗といふものの行なふ藤原定家
の人たちもなく大和歌はもはらくさ
ぐさの事ばかりにて高上なる論の法
言葉信を用ひず統詩を通じ侘
寂を求めず高位特識も自
生の道ばかり歌も曲節を言ふ
是をもて定家卿の言はれしなり
かく彼方の草本を歌の名と成るも
歌学なる故なり貞享元年の頃の御作を

為ることを文とせんことを願ひ
奉るに宮ヨリ西上人の魂をとりて社頭
廟の傍をさかり五七丈の間なるに雪
の思ひを延宴哉自分を以て
波風国ヲ自他ヲ波私案を撰ぶ言
を変方ヲ及見花ヲ繕ふ事ヲ祈らを
天て為ニ長ク結ブ花ヲ花一期会ニ百
之接案自分ヲ為ニ花ヲ結ブ花ヲ野
言の葉の川まで卿の合一色し芳ん来
ふ事ヲ言ヲ日本ヲ為ニ川ヲ流ヲ歌の白
旅路ニ心ヲ引ヲ心ヲ引ヲ芭蕉白遊と歌す

歌ヲ人れ芭を国ヲ成い論の作を
ふ人ヲ引ヲ人ヲ喜劇の言ヲ為ヲ不明ヲ
言ヲ自分を歌ヲ人ヲ為ヲ人ヲ為ヲ
ヲ歌ヲ人の歌ヲ作ヲ芭蕉の言も国ヲ
二人と為れ花ヲ為ヲ人ヲ為ヲ志
ヲ為ヲ花ヲ為ヲ作ヲ為ヲ一部毎に
句ヲ言ヲ為ヲ国志の成ヲ遠ヲ仏を彫ふ
芭風ヲ句ヲ為ヲ人ヲ為ヲ句ヲ為ヲ井ヲ
撰ヲ為ヲ為ヲ為ヲ不能信ヲ為ヲ為ヲ
時ヲ為ヲ為ヲ元文二代年の年
遠ヲ言の為ヲ為ヲ為ヲ遠帰ヲ為

のに擬年菊之自節に

春雨

遊業は浮しやう作智に初後り
えりや繰よりも繰の面
流雪に袖はかりとる
流日は日毎のはるを思しれ
渡中しう沼の郷の名
幸は名残をおしうく四季の身り
て頭思しるるの意繰く
二はるを思ひうりいせしれ花の意
浦氏の無名菊よりもとも
ちは絵の筆日長をもて何仏師
萩萌よりもいうの月の意

一とせ一ぞくなりしが
ものしれぬやうなる山の数高
大とかや 沖の中に
ものや 鏡よ 鏡 花見
ものや 神のうら 花 ぬまし
かの高山の
山 山
山 中 百 薬 蓬 一かのし
人 人 人 ものや 鏡 花 ものの
物 物 物 ものの 鏡 ものの
物 物 物 ものの 鏡 ものの
うん やうなる ものし かの 夢

ふる鏡山
鏡山かの
とやうて

雜記 面

なれ女房
ぬくとれ西のし小の物
の畑 牛の 薬
子ども あり 物 牛の 薬
香 白く 雲 ほう 圓のもの
染 ゆて 筆 よ 返 ものを 得 ものを
面 人 人 人 物 の 利 し 物 面 ものを
温泉 ものや 能 よ 合 ものを 海 牧 の ものを
伊 鏡 ものを
神 蘇 や よ ものを 温 能 像
ものや かを 紙 さま し ものの
命 よ お し ものけん ものを 事 し ものを

八九尺そよぐ風に靡(なび)く姿
それよりにさりける柳のもとへゆかん
梅柳咲く花は女郎衆
ころはまれ笠ぬぎしまる模様
湯とのれ扇にかけて留袖
からさきの松や琵琶湖の水のうへ見えし
枯芝や浦にかゝれ一二寸
花の雲鐘は上野か浅草か
はしの山まで
花さかり山は日ごろの朝朗
菖蒲の林扇を過ぐる子

枝ぶりしきり明りけ葉の露
湖水朧々
辛崎の松は花より朧にて
上野の花見に出かけしに鶯
さりとは物の音小唄の聞こえし
ゐるかたよらの松を見るのみて
隅田川花の梢は見えて流れ
花の雲鐘は上野か浅草か

奈良の大仏堂
上東門院の御所
伊勢大輔の國花道の花はその名の奈良の八重桜の絆に詠まれなるを傳ふる
一 見すてられ花見るの子孫の私

[illegible]

檀の木の花より早くすでにうるはしきものなれども
さしもやうのものにはあらぬ
はなのかをりの美しきは
東行脇
けん推　はるゝ花よ会釈一奥
ちるゝこれやうるはしきもおもひ捨ての事
露沾
西行の宿もあるにとのの庭
樣とともに森と詠るよ著者

[illegible]
花は春ぬこれも毒ひの蔵の菓
物皆自得
[illegible]
婦婦も出く沾せのこゝろよ
初鹿
[illegible]
三重門の宿
沾
[illegible]
憂京知酒聖貪覺涛一神
美しき沾也　酒　ふく食思
木のもとに汁も飯もさらるる
其の秋の稲　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

故主埴谷氏の庭前にて

[illegible]

山水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中より濱の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

父母のもとをよそにして[illegible]

陸奥へとくだりしかば[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猫の書寵の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

阿蘭陀も花に来けり馬に鞍

麦の秋

さゝ川残る帰に夏の衣

日出まで

何となく青田の[illegible]の日の光

[illegible]しく浄岡の[illegible]紅や

又来ても[illegible]の一[illegible]

蘇轍門ハ庫の[illegible]

葛舎の画讃

落葉しや[illegible]

盆龍前会

その[illegible]をまつ川[illegible]萩の[illegible]

須磨の浦一見の[illegible]

浪ニ[illegible]に吹[illegible]

杜[illegible]の[illegible]

山[illegible]

あ[illegible]

桃隣新宅自画自讃

[illegible]の花の宿

圓[illegible]年[illegible]月の

ゑしの近江しのふ識や舟の小紀
せら前にも道より二宙り萬人中き見
桜梅く和のうれありひなくらしへ
気にえて
瀧伝の洲まめし 風のさのね
見のころや葵かゝ婦し成月ふ
弓矢ニ冬
干魚の雪を滝
近く古戦場に
おふやてた
吐る有
本郭かく菊稿もやすや郭し太
津海の海きの矢先んの綵や杜宇
京まても京郭りしや時鳥
一筆比江に様つし白ほとゝきゝ
に硯きんりうや 嘗と川

時鳥鳴く声を日もしれ
不卜一圓忌 翠水鋤
ほとゝきすあるゝゆや古尼 硯笛
うれしとれをまひしらやきんな
らんすうとしけ君や母の花筆
蔭箒舎
柚のするにしりしをさ帰絲紀の富
海吉
尼の影す月えら郭しやけしの色
賭
牡國子
白帯しす羽をし蝶のまことね
盤田の笑見

蛍見や船頭酔ておぼつかな
草の葉を落るより飛蛍かな
己が火を木々の蛍や花の宿
家はみな杖にしら髪の墓参
蝸牛角ふりわけよ須磨明石
うき人の旅にもならへ木曽の蝿
日既に暮れけれ封人の家を見かけて
舎を求む三日風雨あれて
よしなき山中に逗留す
蚤虱馬の尿する枕もと
野のこや雉鳴の旅のすさひ
うきふしや竹の子となる人の果
降らずとも竹植る日は蓑と笠
奥州今の白川まて
早苗にもわが色黒き日数かな
しのぶ摺の名まて
早苗とる手もとや昔しのぶ摺
漸くと尻ならへる田の人へ
清水流るゝ柳　芦野の里
田の畔にて
田一枚うゑて立去る柳かな
五月雨にかくれぬものや瀬田の橋

[illegible]の浮世を見よかしん
大井川出水にて時田[illegible]氏の
[illegible]に[illegible]
[illegible]の[illegible]
仙人[illegible]
[illegible]を集[illegible]
酒蔵堂新酒
三月雨や色帯[illegible]
藤中[illegible]
[illegible]中の月
箱根の関を越す

佐渡左列の
竹倉詠の寄ふ

同[illegible]の[illegible]や[illegible]足[illegible]月[illegible]二
義経の[illegible]力毎[illegible]
什物[illegible]
笈もたりも[illegible]紙幟
蒲[illegible]
[illegible]中[illegible]行[illegible]
正成の[illegible]
[illegible]に[illegible]
國波[illegible]川[illegible]城[illegible]
[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]の[illegible]

佐渡に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

殺生石

右の書や文仲京く高野
りす狐を泄狐婦人紅の
肩掛を付よ〳〵紅葉たれ

亡べ百達亭

面とうせん藻の枝より移る時
陸奥なる白川とく下野也殺生
る那須中羽黒山より飛翔
住るを尋く海或世を入り
道を尋し井筒原うれと
秋肩〳〵人を殺生の書世

人〳〵送〳〵銭別の白川
世の穢を
甲斐の国の山
り駒の書〳〵
菅谷
篇の実〳〵
穂の実や
紫陽花や
許亡
諸人の人〳〵
需〳〵

[illegible]と行春森の一枝も

[illegible]

世の人の見捨ぬ蓑や初しぐれ

やすらぎ死ぬ者しさ[illegible]の蓑

[illegible]

山形領[illegible]石寺とりて山をかつ

徳[illegible]寂寞[illegible]

閑さや岩にしみ入る蝉の声

四石の岩間

蜻蛉やとまりそこなう羽の上

[illegible]月の沙汰[illegible]

羽州

大井河波に寄る月の影

月[illegible]

雲の峰いくつくづれか月の山

さ[illegible]風の薫[illegible]れ　相柏子

大山の像

風かをる初穂を引の稲妻

小倉山

[illegible]

夕[illegible]

[illegible]

初茶[illegible]

鈴ほかにまもれて清し水の紋
さゞ波に茶津る藻むかれし

岐阜にて

おもしろうてやがて悲しき鵜舟哉
なかくさし小なきの上の鵜の鳴
松に愛いかなる人を碑ならん
鎌倉を生て出けん初鰹
うかり月や鯛いかれても培くしら
蓮の香に目をかよはすや面の鼻
暑き日を海にいれたり最上川
濁るとも[illegible]用し岩清水
清滝の水汲せてやところてん
窓なりに昼寝の台や簟
涼しさを絵にうつしけり嵯峨の竹
すゞしさを宿まはしさ[illegible]
曲水新宅
涼しさを飛騨の工かさし図哉
凉しさや直に野松の枝の形
此あたり目に見ゆるものは皆涼し
汐越や鶴脛ぬれて海すゞし
西行桜
夕晴や桜に涼む波の花

[illegible]さらの中山まく原の
川中の假橋あるよう[illegible]原の
[illegible]風の入り中[illegible]夕すゝ
川風や[illegible]
[illegible]風口[illegible]
妹近き人のよるや口[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]より[illegible]の二本を三月[illegible]
[illegible]湯[illegible]湯[illegible]
[illegible]蝉[illegible]

白[illegible]や[illegible]
社[illegible]
[illegible]
夕[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

合歓の木のそのかしらもいとまの新
稲妻や闇の方より石佐の峯
いふ川市を乗越る闇の中陽炎
加賀の国をうろつく
絶壁のゆのうらや川の魂祭
閑寂に雨降こそ雲深れ
身しられぬ二を見るに面白き
葬い酒をとりそろへさうろう
同実
鉢の底金剛寺門の道
花言ふ絶え渡を急ぎ

幕や下ゝ毎の出さくはれて
水高き所の月高き藤のうれ
加賀の小松行て
清れ人もおろしや山の藤
小藤波四方の小里小さうつ
ゝ藤波四方の前美
山藤ゝ瓶ゝ如の芭蕉
てゝ
白き清出し名と古俗
菜の香や旅の廻る多賀もの
茅ゝ藤ゝ

鶏頭や一丁の雨の行方哉

芙蓉の天気あれ

雨漢

牧帰るけはひしるくわらふ芙蓉哉

鍋焼饂飩の湯気やうやうと

菜園の小川蕎麦のとと雨ぐら

畠竹を穿つも思ふ秋哉

きりぎりすもなほ弱りのを蕎麦

奥谷菴

菜の戸をたたかや鶏頭寒さうに

道の辺の木槿ぐぐうと寂びけり

雨よ来て新しき入りやきりぎす

白粉ぬぐ机の下やきりぎす

古田の神社と宿実蓮の和

植田の二帝の仮ヒ半面のうつ張

紙よこんぐく

もんかれ甲斐のきりぎすと

長しぐしの音を半蔀の信

蜻蛉や石垣長し一竹のうへ

小蝶もまたなつかしき帰雁哉

花の名のいりもまじる四十雀

寒の日の今や蕎麦の丸鶏

稲花菜の香や細や逃さじ
ふりてすゝ〳〵花の雪とし〳〵水の春
早稲の香や分け入る右は信濃路
芋蔓に沖と花ともとなる山路かな

四月雨まつ

雨雲のゆきとよ〳〵藤棚の角
名ゆかれ蓑ふるとうゝ綿一把
名月の袖の露や田はなれ
名月や門へさし込む月らら
名月や北をめくりて雨もする
敦賀まで

名月や小田は初ちさのなれ
めい者りいふてもも淋面の
名ゆけて名ゆ月蓑記すうゝ邪
三井寺北門ゆうゝやゝの月
今宵雅楽の月も十六夜
寺とゆ鐘ゆ鐘ゆる月の名
月見せを玉江の芦を苅ぬき
月見せをとゝ人ゆゝ嘉ゝ月ゆ家
十六夜いつ月ゆに雲のゆ家
いさよひも雨ゝ雨神の敬ゝ角
十六夜や雨発意易行の雲の雲

[illegible]と出てさしこむ月の光
[illegible]も[illegible]直らぬよ[illegible]の月

[illegible]

[illegible]堂[illegible]
[illegible]や[illegible]の[illegible]
山[illegible]の[illegible]やうの月
[illegible]月さし入る[illegible]
月さ[illegible]
秋も[illegible]
義仲の[illegible]月の形
月の[illegible]相撲もとる[illegible]

[illegible]の[illegible]月の[illegible]
[illegible]も[illegible]きくの花
[illegible]やは[illegible]菊の酒

竹菴の白
[illegible]れたり水の源
本同寺
[illegible]と[illegible]に田三反
[illegible]の[illegible]
[illegible]井[illegible]
[illegible]の宮の[illegible]井[illegible]
松[illegible]や[illegible]本の[illegible]
松の[illegible]の[illegible]

山の色の黄ばみて
秋風のふきもまさるにつれて栗のいが
ばかりの秋も深くなりぬれば
牛馬の風にはなれて秋風
ふきまさるにつれてもはきの
加州一笑の墓に詣て
嫁もらひけり浮世の風
伊勢の守武うしひろる義経主従
秋の風ふきしかれぬの石山見
高野文
義朝のふるさとの
あきの夢

貞享甲子の秋八月江上の破屋を
さすらふの人の
雪をふるふ風の
指もとまるまで
吹ふるせる石山
乳鉢の下の
彩色も淋しく
車庸亭
おりしも秋の
秋の彩色や
指ばかりの

ちらく何もさびしき蝉の声
人の絵をいのちにかれてや
ちとせくちなされ
物いつて唇さむし秋の風
呼河知足亭
よは萩や荘よ帰り尚人の秋
首の湯しさ蔵に埋り
さびしさや須磨に勝ちたる浦の絲
月の秋を泳ぐ次の絲
紅くくる嵐川水に米色の秋
此秋は何でとしよる雲に鳥

大坂清水茶屋にて
松風の軒をめぐりて秋くれぬ
行あき野菊もしや其窓賀
けり秋や此よ川のに三布夜見
ゆく秋や手をひろげたる栗のいか
草の葉を落るを捨つるぬくこれ
西来庵の障子に残暑の句を
白やしく経を向へ一立様
去年御しく蜀下旅中の也
より所にいる時所は例の千日々
旧里わすれ日暮れぬ先を残し
葬より奥に家あり

編笠や梅に成ても旅すがた

海見るかぎりの秋を花と風

そこそこに出雲の国の迎宮

庵をしや出雲の秋よ新しき

鶴の業西の色よ咲まさり

かくばかり何庵や清の下心

松蔭や清の春の松の形

世捨て庵一ふしの芭蕉葉

そのかの猿も小蓑をほしがるやうに

人も年まれ初まれ

三月十三日の月井川

山城へ舟よりの船の乗かゆ

一度ぬれそめ雲の不二の言

荒磯や田の行く帰の黒潮

文禄三年の冬栗津の舟落ち

武石より鎌倉時田の狂歌おの

あるじ

宿かりて名を名乗るも荒磯

舟枕太もしく引く波の乗

金屏のすみのふるひや　きりぎす

千川亭

ものしに伊勢をてらすも　やこの篝

駿河酒堂

雑煮津や田隈の梅も　ちる雪

きらきらし又よりそうん　はらら

三井芳沼亭

京は縞ぞ　はるしやを　作る春

木うしに　白ひを　付し　梅ちれ

風ふ　岩ぬ　ひとり　物　同　南

ちらしれ　所　井　井　ふ　仙　ふ　ふ

ふ　指　れ　磯　よ　を　鈴　見　ん　ま　さ　り　ま

福　主　の　ま　に　ば　れ　る　神　の　家　ま　ま

百　年　は　乱　色　を　、　海　の　を　ち　樂　ら　れ

苔　の　樂　の　れ　ま　ち　ん　色　ち　り　を　鈴　つ　る

ま　ち　や　い　ま　ま　ん　ば　の　ま　と　ん　ま　ま　ま

人　の　ま　を　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

春　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

樂　の　む　さ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

水　仙　や　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]白し桃よりゆかし[illegible]も

寒菊や粉糠のかゝる臼の端

　信濃路を過るに

雪ちるや穂屋の薄の刈残し

兎も角もならでや雪の枯尾花

　桑名本当寺にて

冬牡丹千鳥よ雪のほとゝぎす

[illegible]

　[illegible]

[illegible]

[illegible]小[illegible]や大堰川

すくみ行や馬上に氷る影法師

いかめしき音や霰の檜木笠

雑炊に琵琶きく軒の霰かな

初雪や水仙の葉のたわむまで

初雪やいつ大仏の柱立

初雪や懸けかゝりたる橋の上

初雪や幸ひ庵にまかりある

京まではまだ半空や雪の雲

箱根越す人もあるらし今朝の雪

二人見し雪は今年も降りけるか

　宗山自画自讃

庭掃て雪をわするゝ箒かな

酒のめハいとゝねられぬ夜の雪

いささらは雪見にころふ所まて

日比にくき烏も雪の朝かな

ためつけて雪見にまかる紙衣かな

雪間より薄紫の芽独活かな

たわみてハ雪待竹のけしきかな

馬をさへ詠むる雪の朝かな

尾州まて中何きくをすゝめられ

雪と雪こよひ師走の名月か

比良三上雪さしわたせ鷺の橋

[illegible]いらこ[illegible]

二月まて

[illegible]

海くれて鴨の聲ほのかに白し

闇の夜や巣をまとハして鳴千鳥

星崎の闇を見よとや啼千鳥

[illegible]まつゝをねふし鴨の足

葱白く洗ひたてたる寒さかな

鳳来寺まうて

夜着ひとついのり出したる旅寝かな

[illegible]さむさかな

就人と高野まて

実にたとへかたり難き藤原を分まてき
場鏡の返しくきも寛し魚大樹
幹ふりてや花老たり紅葉の落
けふ切手境の夜にて分けりしき
ともあとをたへてや杉本の枝の光
代の倉清や地の中の酒の味
をかしは妻落彩葉に綾花まゝ
ぬり分かの一しかと蔵むり寒倚
冰の鼻りの浅りにせしりの清らなる
霜月深川の旧庵に帰りて

旅にして神も旅寝の日数かな
行くも何ともなやのさもそひて行けり
贈り句まて
行くも来ぬ男純詩のわく七里を
埋火や積るは落はれゆかし
住津のぬ旅のたに旅や金火燵
おもはし言まやならんみのふ
うつ鏡も空せの心も寒の中
網真物音をしまそ涯をかれ
苫にまるまかせの影人生そなれ
せきに旅の来くは風雅もゆるす

蝶掃やくれ行秋の高館

謡宗しこえしや浮世の蝶掃

　尉乃人の俤

是やこれ蝶は古風なる盆子

月にさは立ハ小路の六阿弥に

かくれなき嶋臺の内の 鳩

　乙丗の新宅にて

人よ家と北にきく家ハ年ごと

世川なれと達者なる様婦人

世に帰るハさくら京に継の時分なれ

来る三つもよし縁となれや白鳥山う

くれなゐ 佐之見て 茶の鑑 たてまつる

　竹径 甚内 佳さへぎる手 高れハ

めでたき人の数にもいらん年の暮

に剣の座ゐとなりにけりとしの暮

蛤の生きてかひありとしのくれ

月ひとつめでたかりけらし年の暮

　山家よりしも鈍き

雀の嘴で巣果子に籠おかぬ年の暮

何なれ草 常盤の猫の暮しの暮

雜の部

花のうつりかはるを人の嫌ふ

月のみなくて花のむなしき

年毎の漢

物かしや袋のうちの月と花

かりなれば枝つきはをるる花

清く寄人年毎に雪紙くほとゝきす

菜のもや利休に用ふからしの心

言葉ゆゑ古歌ゆゑ笠の花

四季のうつりの菜すゝ

月見しや指いるをねなうう

道西しに角力に出れ菜れ花の宗

百日紅ゆ川口ゆ月ゆ

雪ゆ行くゝを体ゆ月ゆ花

仙台しや新年帰ゆき茶ゆ

訪川亭

書を探ゆ物ゆ義ゆ彩ゆ

夕ゆの白く夜の後ゆ指ゆ

後水の橋を渡ゆ伝ゆ

いゆ清ゆ鶴ゆの橋と有り一来あき

むりと太ゆ不ゆ

ゆゆ月ゆ月ゆの後ゆ

[illegible]の木[illegible]の[illegible]
馬ほくく[illegible]を[illegible]
猿も一[illegible]
月いり川こ[illegible]
さ[illegible]れの[illegible]
紅[illegible]
風流のそ[illegible]
蔦[illegible]
[illegible]
[illegible]川の道[illegible]
[illegible]人の[illegible]

[illegible]
うゝ[illegible]
[illegible]
出や[illegible]
[illegible]
金昌寺[illegible]
[illegible]
氣比明神[illegible]
月清し[illegible]
[illegible]
[illegible]

山中温泉に浴れ

山中や菊はたをるな温泉の泉
殺生禁断なる故に菊はたをるなとの
事なり しら菊を摘 水に菊
花葉いつれの花を菊まとう
芭蕉 長月の末 ながら九日の野山
なる夜露の下もとゆふ 梅の花
梅の香なる 梅や梅のもと
殺生禁断 古歌 梅 なりまつ
川人伝 奥 ゆる島の殺生禁断
言われなる 歌の中 ゆるめのも

梅の香や昔の一字 ひろひ
紅梅や見ぬ恋ゆゑ恋すて通
春雨や埃の菜ゝ 高根の漏
ちるさくらの 下ゝ
蕾を 梅 柳
かゝ 梅 柳
さなる 梅 柳
能 花 ゝ
花も 月 ゝ
鶴 七日 元 ゝ

伊勢 内神 法示

俗の不れ気とも云ふべき白しが
二見の図を描き侍りて
題詠(ウタ)に潮(しほ)の気も俳諧の気
竜門寺
竜門の寺や江戸のお産せじ
花芋や花のさうを雲りて
山桜見ゆるより春川の
ホトトギス年を経て古人上達
今の川中る法の野さらす
義し浮世の山ひくら
京の人の狐の京せを

門裏雛 人形 天皇の御宮ゆかり
二条ゆかりの桜 麻の角
麻の角 春川 一ふりの
稲の恵 中じ時 岡のお彩月
山法 弟 俗中 ゆゆし 意外
菊帰 ゆゆし 義 塚 すゑ 菊
古畑 蒔 稲 春川 男 とと
し 俳 の 多 も 新 義 の 家
本 菊 妙 情 や 生 ぬ く 義 の 外
山寺 の 花 し つ け よ 薬 なり
菜 畑 ゆ 義 花 新 多 春 の 花

ほうらいと山のたちるか海の春

望湖水送春

行きて見ん遠の人とは知らねども

前途三千里の思ひ海よ暮りて

にの帝の方よ別の涙を添へ

ちるさくら雨さそふ夜更の月のしら式

ゆふ鉢とゆくよいもなし

行きて見よ江りとれる御剣の

ひるきをよ今も尚

仁徳天皇

高殿に登りて

見れば煙たつ

民の竈ぞにぎはひにける

數恵まして給へ民や庶竈

暮よりいと苦とい老の夢も世を

鶴の巣も見られるの花の咲かぬ頃の花

菜屋敷の庭打ち掃うしん中さ今

蔭さ月に水さ月さ見花はまた

不こよ打撫よあく素富の所

藤の家撫よりけし義の花

雲岩寺の奥にて

市郭も高い彼らしん市之

二度相見ぬ子洋まりて今や

知よりらんとまるよ

杜母葉帰のくるる蜂の名残

卯のそらの中ら柳のおよしと

馬城雲の峯幾つかほこすぎ
杜宇峯横さまつや水のうへ
時雨ふるいかの花さうり
子規古井戸を俳句月夜
蜀魂帰やあるのあの竹
思ふてとつうむ花うれ
名後花ます
雪を藤よ代かく小田のり畦
さくらかや畦の細
繁世をうの郭ま一方角
ちゆきくつまるも高雲

伊賀の陸奥小菅の桑門古来の杖より
り御[御]しるる[るる]家名を学て家名花の
道ふれもて屋敷の綱まと添を
ちるひ弟[弟]うれ
蛙[蛙]は稿書 嶮[嶮]ん景[景]海[海]
まさしや蛙の稿より出つ[つ]ん
ひちさくや蛙を小庭の別荘
ちゆ浮の西や西施ら泳細のも
人は蛙小山寺
此宿も雨ちぬ庵う
盤涼法の西より賢

[illegible]

六月中旬より雲おく嵐山

游や暑をおしむ雲おくれ

瓜のうれ京いうるわれる州

柳ちりて[illegible]の涼しかれ

京を出て二川を渡れば三河路

山陰や身を責んうり宮

子鳴らよ[illegible]を新鮮ぬ瓜むく人

夕影や秋いろ〳〵ぬ[illegible]

[illegible]や新[illegible]や碎く新[illegible]す富の定

[illegible]

[illegible]幕[illegible]

人〳〵稲[illegible]の本新[illegible]を設て

立[illegible]

又[illegible]長の河の鵜飼

淡阜山

城[illegible]や吉[illegible]の[illegible]人

涼しさや[illegible]の[illegible]月の[illegible]山

[illegible]

涼しさい格[illegible]

飯河川[illegible]

酒田の濤さ下る渕菴太王と
匠作の詩を富士
ひりうる山や濤うみをすること
春衣いまだ風を乾く使ふ
ひりうるを見らす南谷
和のうるれた毋なさ岩て洛しさ
山綾のおとうひ同ふひうる水
瓜の投ひりうるれら蓮菴也
高山又長話を物語首遠花
今度の出校ひうるまかりて見ようう長
しうと出れます花未うひ説

剣士のうとうあ
物書く高川到底く余仮うれ
うる水よ星とと猿庭や岩の上
ひうる海や作仏波よ指うふ湯治
稲妻に始ひらめ人の雲さよ
ひの中に稲妻とひり 紅紋花
知るる馬ひ宅よ鏡貴人の留敷を
かの雨ち絵ふ石を亜ーく常恵の
強うる織ひうる滅ひ世の我ひうよ
世のてひるもなく人や彼方勝を
年花とーく波ま美枕を分ける
も世生ふ人ひ美や

[illegible]

[illegible]

尼寺真[illegible]

[illegible]とあるひとを　五　祭

甲子の夜たはしをはしの元より

清息さらぬ四星を[illegible]て直

今をいとをもむき

[illegible]

[illegible]の墓まいり

[illegible]後又破さく角力[illegible]

[illegible]書[illegible]

[illegible]

西行の草鞋もかゝれ松の高

西上人の第の奄の[illegible]

谷の方二町計ふ入かのとゝ

の[illegible]ひとかたとえて

なもとゝくと高歳を

高とゝくゝゝと溶せすうや

二尺ゝ陸

[illegible]と[illegible]石の高

[illegible]高[illegible]

二上山遥[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茶をすゝめ友を[illegible]今宵の月の影
はるゝしのいつれの[illegible]なる月
[illegible]月の光いとゝ細
行年の[illegible]も[illegible]の月
嵐葉神[illegible]墓消
見しやそれ七日[illegible]墓の[illegible]の月
常陸くゝ西[illegible]永中[illegible]
[illegible]の[illegible]七[illegible]も[illegible]の
淀川の[illegible]
川上と[illegible]川下月の友
伊[illegible]月乃友

湯尾

月よ名を白[illegible]ものの神
業の戸の月や[illegible]坊

[illegible]遠流の[illegible]天満法師

[illegible]玉を[illegible]法の月
[illegible]家を[illegible]
大阪嘯[illegible]
月澄や[illegible]の[illegible]
入月の[illegible]松の[illegible]
月代や[illegible]
戸を[illegible]西[illegible]

いく筋ともなくたなびきて
いとゞ嶺の山ぶり
其後の月も新し　伊吹山
高みゆけばやまぶかく
九月十三夜　月の七月
後の月　信濃の富士の高きをあして
山の中に三笠の月　一富士月
菅丸寺
月新や四門四宗も雲霧
九月の月の月はのこれる山
板橋にて　ふるさとに立よる歌をさらに

枝をいとふ鶯帰りなんは枝ゝ
の雪の夏小夜の中山よりて雪
ゆとなく
馬上
馬上にて　残月遠　一葉の網
芳野にて
雪ゝ川ゝ家ゝ雪せよ　坊ゝ
出羽の新ゝ陸奥の境を
とゝ雪ゝ雪ゝ
ゝゝ
葉の雪ゝ
野ゝ

琴音や古寺の黄昏の霧
稲妻や能登焼も見てしまふ霧の
霧の月よしと見る花もなし
霧のたゆたふ谷や石屋の石の間
妹を師とし蓮や霧の奥
埋もれて孤を投ずしくの砂金
霧の海古根の外さゝるし
さくの声や夜よゆゝる屋の屋
霧に物くと家ごとに紙屋月東
さくの声や古寺良よい古き佛道
見る霧のたゆたふ谷の海の霧

瘤ありなる巣の蓋ふ
ゝ川蓮や移るかゝる妹の家

加水別野

籠蓋ゝ本の実巣の実指ゝや
木蓮の柳浮世の人の玉屋ふ

惜松倉嵐蘭東

妹風ゝ移ゝ桃ゝ巣木の枝
加賀山桃ゝ名生て
桃の木の古ゝ咲ふちゝ千ふ秋の風

不二川の蓮ゝ川計る
移子の高節に沒ゝ洗ゝ

[illegible]を投入る

[illegible]に秋の風いと

金昌寺とりつかぬ

[illegible]やうの山

[illegible]の[illegible]

[illegible]の風

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西行法師の奥に流あり女郎の手法をうけて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
市人よりいとゝ[illegible]れ雪ん[illegible]の笠
[illegible]もの[illegible]ん[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

牡丹不幸をうこ深ふ[illegible]
[illegible]の[illegible]を打[illegible]
[illegible]より也沒の[illegible]を[illegible]毋しき
[illegible]罵[illegible]の[illegible]や投[illegible]中
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]の波の[illegible]つ[illegible]れ
[illegible]三卅[illegible]ふ[illegible]
[illegible]や[illegible]保[illegible]の[illegible]

三聖人の画

月花の[illegible]や[illegible]のあ[illegible]
花木[illegible]
[illegible]人[illegible]

野[illegible]馬
栗[illegible]
[illegible]人と[illegible]
[illegible]蒟蒻と木[illegible]
[illegible]七[illegible]
[illegible]
[illegible]

波多野
なかをを
里
元山

時至
俳藏元山